

# 大学生の塩味嗜好に影響する要因について

加藤 征江・井藤 早苗\*

## Examination of Factors Influencing the Salty Taste Preference of University Students

Yukie KATO and Sanae ITO

e-mail : ykatou@edu.toyama-u.ac.jp

### Abstract

To investigate what factors in home life influence the salty taste preference of university students, we surveyed 387 of them (120 men and 167 women) on their living situation, family situation, meal situation and food preference through a questionnaire.

Many of the students (24% of men and 25% of women) answered that they had an "middle" salty taste preference. This category was related strongly to a salty seasoning in the home under living situation and meal situation. On the other hand, a ranking correlation analysis of 25 kinds of food was accomplished to the salty taste preference. As the result, when the students liked stronger salty taste, men were found to prefer potato chips ( $p<0.01$ ), and women were found to prefer miso soup ( $p<0.05$ ) and salted salmon ( $p<0.05$ ), significantly. Therefore, a qualitative difference seemed to appear between the men and women in salty taste preference.

キーワード：塩味嗜好，生活状況，食事状況，食物嗜好，アンケート

Key words : salty taste preference, living situation, meal situation, food preference, questionnaire

## I. 緒 言

近年の疫学調査により，塩分の過剰摂取と高血圧や胃痛などの生活習慣病の罹患率との相関が高いとの指摘がなされている<sup>1)~3)</sup>。その塩分の摂取量は塩味の味嗜好（塩味嗜好）と塩味の食物の嗜好とが大いに関係するものと思われる。それらに関して，我々は男女大学生に，塩味または甘味に対する味覚意識と食物嗜好の調査<sup>4)</sup>により，家庭科専攻の女子学生は一般の男女学生よりも有意に薄い塩味を好み，また女子学生は男子学生よりも有意に薄い塩味を好むという結果より，塩味嗜好に対する教育の効果，および男女間の味覚の差異が示唆された。また中学生および女子大学生では，塩味の汁物の味嗜好では味覚検査とアンケート調査の相関が有意に高かった<sup>5)</sup>。そして，女子学生についての塩味の味覚検査<sup>6)</sup>により，塩味の好みの濃さは標準の1.0%よりも低い平均0.9（標準偏差0.04）%との結果を得た。

一方，塩味嗜好に影響する要因については，高木ら<sup>7)</sup>はかつおだしの清汁を用いて，塩味覚と年齢，性，薄味の訓練の有無，だし濃度などとの関連を指摘し，また香川ら<sup>8)</sup>は寮内学生について尿と食事記録とから，出身地により塩味覚に僅

かの差を認めたと報告している。しかしそれら以外の要因，特に食生活に関わる要因が塩味嗜好にどのように関係するのにかについては，まだ不明なことが多い。

そこで本研究では男女学生に対してアンケート調査を行い，塩味嗜好に生活状況，食事状況，および食物嗜好が如何に影響するかを分析した結果，若干の知見が得られたので報告する。

## II. 調査方法

本学の教育学部，工学部，経済学部の1～2年生を対象として，平成7年5～6月に調査紙を配布し記入後，直ちに回収した。男子については126人の調査紙を得た。そのうち不備のものを除き，120人の調査紙を分析のためのデータとした（95.2%）。一方，女子については一般の女子学生（食物を専門として学んでいない）159人の調査紙を得たのであるが，そのうち不備のものを除いた後，男子と同人数であると比較し易いために，ランダムに120人の調査紙を抽出した。女子はその他に，家庭科専攻生47人に対しても同様の調査を行なったが，この群は不備な調査紙は無かった。それで女

\*愛知県立高等学校

子の分析のデータとしては、一般の女子が120人と家庭科専攻生が47人で、合計167人となった。

調査内容には、家庭生活に関わる生活状況（居住状況と家族状況）、食生活に関わる食事状況および食物の嗜好を取り上げた。

居住状況については、「出身地」、「居住地域」、「居住形態」を取り上げた。家族状況については、「父親の職業」、「母親の職業」、「家族構成」、「食事の用意者」を取り上げた。

食事状況については、「家庭における塩味の味付け」、「塩味の濃淡の好み」、「昼食を外食する回数」や「夕食を外食する回数」、「味噌汁などの汁物の量」、「揚げ物等にソース・醤油をかける頻度」、「揚げ物等にかけるソース・醤油の量」を取り上げた。なお「家庭における塩味の味付け」については、質問票では『あなたの家庭での塩味の味付けは外食した時の味と比較してどうですか』、また「塩味の濃淡の好み」については『あなたが好む塩味の味の濃さはどうですか』、「味噌汁などの汁物の量」については『食事時における汁物はどのくらい飲みますか』と尋ねた。これらの各項目において、3つ以上の選択肢（カテゴリー）を用意し、その中から該当するカテゴリーを1つ選択させた。

食物の嗜好については、既報の食物の嗜好調査<sup>4)</sup>をもとに、塩味、甘味、酸味の各味を主とする食物を各5品目と嗜好飲料を5品目、野菜類を3品目、そしていわゆる“主食”としての「ごはん」と「トースト」の2品目を合わせ

て25品目を取り上げ、味嗜好において全般に渡るように食物の選定を行なった。それら食物に対する嗜好度は7段階の評点法を用いて、“非常に嫌い”から“非常に好き”までを7段階評価の1～7点で評価させた。

集計は男女別に行い、女子については、既報<sup>4)</sup>により、家庭科専攻生は一般女子とは味覚意識が異なる点がみられたので、女子（全）群（167人）と、女子（一般）群（120人）とに分けた。生活状況（居住状況と家族状況）と食事状況については単純集計により実態を把握した。なお、食事状況のうちの「塩味の濃淡の好み」の項目は本人の「塩味の味嗜好」を表すものとして捉えて、その項目と生活状況および食事状況における各項目とのクロス集計を行ない、 $\chi^2$ 検定により、「塩味の濃淡の好み」と関連する項目およびカテゴリーを調べた。

一方、男女各群について、25品目の食物の平均嗜好度（平均値と標準偏差）を求め、そして各食物に対する嗜好と「塩味の濃淡の好み」とについてはスペアマンの順位相関係数（ $r_s$ ）により検討した。

### III. 結果と考察

#### (1) 塩味嗜好と生活状況および食事状況の要因との関連

大学生を男女別に、また女子については方法の項で記したように、女子（一般）群と女子（全）群とについて、表1

表1 生活状況についての男女別の集計結果

No.	項目	カテゴリー	男子 (n=120)	女子（一般） (n=120)	女子（全） (n=167)	人数(%)
1	出身地	1. 富山県	48 (40.0)	68 (56.7)	97 (58.1)	C1
		2. 石川県	23 (19.2)	33 (27.5)	47 (28.1)	
		3. 福井県	4 (3.3)	8 (6.7)	12 (7.2)	C3
		4. 長野県	7 (5.8)	2 (1.7)	2 (1.2)	
		5. 新潟県	1 (0.8)	0 (0.0)	0 (0.0)	
		6. その他	37 (30.8)	9 (7.5)	9 (5.4)	
2	居住地域	1. 平野部	91 (75.8)	88 (73.3)	122 (73.1)	
		2. 山間部	14 (11.7)	16 (13.3)	24 (14.4)	
		3. 海岸部	15 (12.5)	16 (13.3)	21 (12.6)	
3	居住形態	1. 自宅	45 (37.5)	58 (48.3)	81 (48.5)	C1
		2. 下宿	72 (60.0)	62 (51.7)	86 (51.5)	C2
		3. 寮	3 (2.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	
		4. その他	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	
4	職業（父親）	1. サラリーマン	94 (78.3)	91 (75.8)	119 (71.3)	C1
		2. 自営業	21 (17.5)	25 (20.8)	41 (24.6)	C2
		3. 無職	2 (1.7)	0 (0.0)	1 (0.6)	C3
		4. その他	3 (2.5)	4 (3.3)	6 (3.6)	
5	職業（母親）	1. サラリーマン	43 (35.8)	58 (48.3)	76 (45.5)	C1
		2. 自営業	9 (7.5)	13 (10.8)	28 (16.8)	C2
		3. 無職(主婦)	29 (24.2)	25 (20.8)	33 (19.8)	C3
		4. パート	35 (29.2)	19 (15.8)	23 (13.8)	C4
		5. その他	4 (3.3)	5 (4.2)	7 (4.2)	
6	家族構成	1. 親子	69 (57.5)	54 (45.0)	82 (49.1)	C1
		2. 親子・祖父母	51 (42.5)	64 (53.3)	83 (49.7)	C2
		3. その他	0 (0.0)	2 (1.7)	2 (1.2)	
7	食事を作る人	1. 母親	106 (88.3)	97 (80.8)	137 (82.0)	C1
		2. 祖母	10 (8.3)	14 (11.7)	21 (12.6)	C2
		3. 本人	1 (0.8)	5 (4.2)	5 (3.0)	
		4. その他	3 (2.5)	4 (3.3)	4 (2.4)	

注：女子（一般）群は女子（全）群から、家庭科専攻生を除いたグループである（表2も同じ）。

表2 食事状況についての男女別の集計結果

人数(%)

No.	項目	カテゴリー	男子 (n=120)	女子(一般) (n=120)	女子(全) (n=167)	カテゴリー 統合	男女間 の差
1	家庭における塩味の味付け(外食時の味付けと比べて)	1. 非常に薄い	1 (0.8)	4 (3.3)	6 (3.6)	C1	
		2. かなり薄い	3 (2.5)	11 (9.2)	5 (9.0)		
		3. 少し薄い	39 (32.5)	34 (28.3)	52 (31.1)		
		4. 同じ	59 (49.2)	50 (41.7)	65 (38.9)	C2	
		5. 少し濃い	17 (14.2)	19 (15.8)	27 (16.2)	C3	
		6. かなり濃い	1 (0.8)	2 (1.7)	2 (1.2)		
		7. 非常に濃い	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)		
2	塩味の濃淡の好み	1. 非常に薄い	1 (0.8)	2 (1.7)	4 (2.4)	C1	
		2. かなり薄い	3 (2.5)	12 (10.0)	14 (8.4)		
		3. 少し薄い	41 (34.2)	46 (38.3)	65 (38.9)		
		4. ふつう	29 (24.2)	30 (25.0)	42 (25.1)	C2	
		5. 少し濃い	42 (35.0)	28 (23.3)	40 (24.0)	C3	
		6. かなり濃い	4 (3.3)	2 (1.7)	2 (1.2)		
		7. 非常に濃い	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)		
3	昼食を外食する回数	1. ほとんど外食しない	4 (3.3)	9 (7.5)	13 (7.8)		
		2. 週に1~2回	12 (10.0)	16 (13.3)	26 (15.6)		
		3. 週に3~5回	56 (46.7)	59 (49.2)	85 (50.9)		
		4. 週に6~7回	48 (40.0)	36 (30.0)	43 (25.7)		
4	夕食を外食する回数	1. ほとんど外食しない	36 (30.0)	48 (40.0)	62 (37.1)		*
		2. 週に1~2回	32 (26.7)	44 (36.7)	74 (44.3)		
		3. 週に3~5回	37 (30.8)	23 (19.2)	26 (15.6)		
		4. 週に6~7回	15 (12.5)	5 (4.2)	5 (3.0)		
5	味噌汁等の汁物の量(食事時)	1. ほとんど飲まない	20 (16.7)	27 (22.5)	32 (19.2)	C1	
		2. 1杯	85 (70.8)	81 (67.5)	117 (70.1)	C2	
		3. 1~2杯	14 (11.7)	11 (9.2)	17 (10.2)	C3	
		4. 2杯以上	1 (0.8)	1 (0.8)	1 (0.6)		
6	揚げ物等にソース・醤油をかける頻度	1. ほとんどかけない	11 (9.2)	29 (24.2)	39 (23.4)		*
		2. 時々かける	38 (31.7)	37 (30.8)	57 (34.1)		
		3. いつもかける	71 (59.2)	54 (45.0)	71 (42.5)		
7	揚げ物等にかけるソース・醤油の量	1. ほとんどかけない	11 (9.2)	29 (24.2)	39 (23.4)		**
		2. やや少なめ	25 (20.8)	23 (19.2)	37 (22.2)		
		3. 適度に	78 (65.0)	57 (47.4)	80 (47.9)		
		4. たっぷりと	6 (5.0)	11 (9.2)	11 (6.6)		

注: \* p<0.05, \*\* p<0.01 (χ<sup>2</sup>検定による)

に彼らの生活状況、表2に食事状況の集計結果を示した。

1) 生活状況

表1より、女子(一般)群と女子(全)群の間で、各項目における各カテゴリーの相対人数(%)はほとんど同じであった。以下の男女の比較における数値は女子(一般)群のものである。

居住状況について、「出身地」では大学所在地である「富山県」出身者は男子の約40%、女子の約57%、近県の出身者と合わせると男子の約70%、女子の約90%を占めていた。

「居住地域」では、男女ともに「平野部」が約75%であり、残りは「山間部」と「海岸部」とがほぼ同数であった。

「居住形態」では、男子は「自宅」が約40%弱、「下宿・寮」の自宅外が約60%、女子は自宅と自宅外とがほぼ同数であった。

家庭状況については、男女間に大きな差はなく、「父親の職業」では「サラリーマン」が約75~80%、「自営業」が約17~20%であった。

「母親の職業」では、「サラリーマン」が約35~48%、無職(いわゆる専業主婦)が約20~25%、「パート」が約15~30%、「自営業」が約7~10%であった。

「家族構成」では、「親子」のみの2世代家族が約45~58%、「親子・祖父母」の3世代家族が約42~53%とほぼ同数であった。

家庭における「食事用意者」では、圧倒的に「母親」が多く、80%~90%であり、3世代家族においても食事用意者は「母親」が多かった。

2) 食事状況

「家庭における塩味の味付け」については、表2から分かるように、家庭での塩味の味付けと外食した時の味とは「同じ」は約50%で、これに「少し薄い」と「少し濃い」とを加えると90%以上となり、ほとんどの人が家庭の塩味の味付けと外食でのそれとのギャップはそれ程感じていないことが分かった。なお、この項目では男女間に有意な差はみられなかった。

「塩味の濃淡の好み」では、“ふつう”は男女ともに約25%であったが、“非常に薄い”と“少し薄い”を選んだ薄味を好む人は、男子の約37%、女子の約50%で、女子の方が男子よりもやや薄味嗜好であった。このことは既報<sup>4)</sup>と同傾向であり、また高木ら<sup>9)</sup>もすまし汁を用いての味覚検査で、同様に報告している。

「昼食を外食する回数」、および「夕食を外食する回数」では対象が大学生で、しかも前述のように自宅外生がおよそ半数いたことから、「昼食」では男女とも「週に3～5回」は約半数、“週に6～7回”は、男子の約40%、女子の約30%であり、「夕食」では“週に3～5回”は、男子の約30%、女子の約20%で、昼食を外食する回数は夕食のそれよりも多かった。そして夕食では、男女間に有意な差がみられ ( $p < 0.05$ )、男子の方は女子よりも外食の回数が多かった。

「みそ汁等の汁物の量」では、男女とも食事時に、“1杯”は約70%で大半を占めた。この項目は男女間に有意な差がみられなかった。

「揚げ物等にソース・醤油をかける頻度」では、“ほとんどかけない”は、男子の約9%、女子の約24%、“いつもかける”は、男子の約60%、女子の約45%であり、この項目は男女間に有意な差があり ( $p < 0.05$ )、男子の方が女子よりも揚げ物等にソース・醤油をかけることが多く、このことは前述の「塩味の濃淡の好み」で、男子の方が女子よりもやや濃味嗜好と関係しているものと思われる。これについては次の項でクロス集計を行って調べた。その項目との関連で、「揚げ物等にかけるソース・醤油の量」を尋ねた結果、“ほとんどど

かけない”を加えて、各カテゴリーの分布人数は男女間に有意な差がみられ ( $p < 0.01$ )、男子の方がソース・醤油をかける量が多く、「揚げ物等にソース・醤油をかける頻度」の項目の結果とともに、男子は女子よりも塩味の調味料を食事時、多く摂取していることが分かった。

3) 「塩味の濃淡の好み」と生活状況、および食事状況の項目との関連

「塩味の濃淡の好み」と表1に示した生活状況の項目および表2に示した食事状況の項目との関連について調べるため、それらの間のクロス集計を男女別に行い、 $\chi^2$ 検定により有意差判定した結果を表3に示した。

「塩味の濃淡の好み」とのクロス集計において、有意であった家族状況の項目は、男子は「母親の職業」( $p < 0.05$ )、女子は「家族構成」( $p < 0.05$ )で、それらを図1に示した。この図より、男子について、「母親の職業」と「塩味の濃淡の好み」との関係を見ると、母親が“サラリーマン”や“無職(専業主婦)”とした学生と“自営業”や“パート・その他”とした学生とでは、「塩味の濃淡の好み」にかなり違いがみられ、母親が“自営業”や“パート”の学生はむしろ薄味であると感じていた。また女子について、「家族構成」と「塩味の濃淡の好み」との関係では、“親子のみ”の核家族であるとした学生よりも、“親子・祖父母”とした拡大家族の学生人は薄味であると意識していた。家庭における食事の用意者はほとんど母親であることから(表2参照)、母親が“自営業”や“パート”の場合、母親の塩味付けは濃いので、そこを基準とすると学生自身は薄味嗜好と意識するのではな

表3 「塩味の濃淡の好み」と各項目とのクロス集計による $\chi^2$ 検定結果

No.	性別	項目	カテゴリー数	カイ自乗値	自由度	確率
1	男	出身地	3	2.56	4	0.6346
	女	出身地	3	2.63	4	0.6216
2	男	居住地域	3	3.38	4	0.4968
	女	居住地域	3	4.84	4	0.3040
3	男	居住形態	2	0.26	2	0.8761
	女	居住形態	2	1.13	2	0.5671
4	男	職業(父親)	3	4.63	4	0.3274
	女	職業(父親)	3	6.69	4	0.1533
5	男	職業(母親)	4	15.00	6	0.0202*
	女	職業(母親)	4	2.47	6	0.8721
6	男	食事用意者	2	1.10	2	0.5759
	女	食事用意者	2	1.77	2	0.4117
7	男	家族構成	2	1.10	2	0.5768
	女	家族構成	2	7.68	2	0.0216*
8	男	家庭の塩味	3	11.33	4	0.0231*
	女	家庭の塩味	3	46.52	4	0.0000**
9	男	昼・外食回数	4	0.53	6	0.9975
	女	昼・外食回数	4	4.10	6	0.6635
10	男	夕・外食回数	4	6.22	6	0.3986
	女	夕・外食回数	4	7.42	6	0.2842
11	男	味噌汁等の量	3	3.50	4	0.4775
	女	味噌汁等の量	3	3.26	4	0.5154
12	男	揚げ物等にソース	3	10.05	4	0.0396*
	女	揚げ物等にソース	3	11.12	4	0.0252*

注1. 男子は120人、女子も120人である。

注2. 回答数の少ない場合はカテゴリー統合を行った(表1, 表2に示す)。

注3. \*  $p < 0.05$ , \*\*  $p < 0.01$

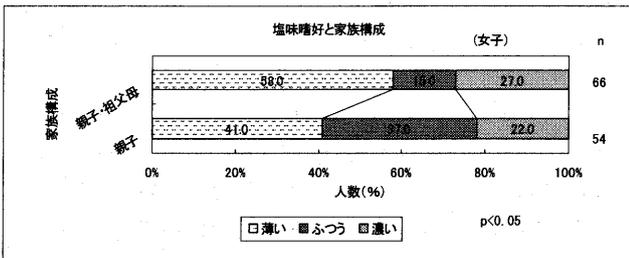
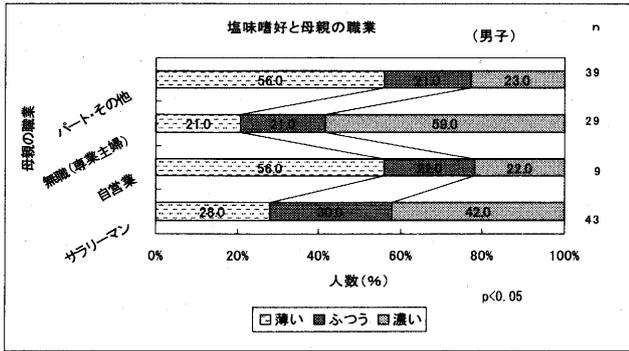


図1 「塩味の濃淡の好み」と家族状況との関わり

いか。そして同様のことが“親子・祖父母”の拡大家族においてもみられたものと考えられた。

次に、「塩味の濃淡の好み」とのクロス集計において、有意であった食事状況の項目は、「家庭における塩味の味付け」(男子  $p < 0.05$ , 女子  $p < 0.01$ )と、「揚げ物等にかかるソース・醤油の頻度」(男女とも  $p < 0.05$ )であり、これらを図2に示した。図より「家庭における塩味の味付け」と「塩味の濃淡の好み」の関係をみると、これは男女とも、家庭における塩味が外食した時に比べて薄いと感じている人は、自分は薄味嗜好であると意識していることが多く、女子においては特にそれらの関連性が非常に強く、これは当然の結果とも言えた。なお成田ら<sup>10)</sup>は塩分濃度の測定により、パネラーの「家庭

におけるみそ汁の塩味」とその人の「調製した好ましいみそ汁の塩味」との相関が強いことを報告しているように、本人の好む塩分濃度と家庭における汁の塩分濃度との関連は強いと思われた。

また「塩味の濃淡の好み」と「揚げ物等にかかるソース・醤油の頻度」との関係では、これも男女ともに揚げ物等にソース・醤油を“ほとんどかけない”とする人のうち、男子11人中の55%, 女子29人中の69%の人は薄味嗜好であると意識していた。しかしそのカテゴリー(揚げ物等にソース・醤油を“ほとんどかけない”)で、男子の36%は濃味嗜好であったが、分母の人数が11人と少ないので、何とも言えない。しかしながら薄味嗜好の人は揚げ物等にソース・醤油などの塩味の調味料を食事時、用いない傾向にあるということはある。

## (2) 塩味嗜好と食物嗜好との関連

### 1) 食物の嗜好

食物25品目の嗜好度の平均値と標準偏差とを男女別に図3に示した。図より女子(一般)群と女子(全)群とは、各食物の嗜好度の平均値と標準偏差はほぼ同じであった。対象人数が女子(一般)群は100人を越しており、女子(全)群はさらに47人加わって多くなっているが、これくらいに多人数になると、ほぼ平均値は同じような値になるようであった。

これによると男女間の嗜好度の平均値がほぼ同じ食物については、塩味をもつ食物類の味噌汁、漬物、塩鮭、たらこ、ポテトチップス、そして甘味をもつ食物類のまんじゅうと煮豆、ヨーグルト、野菜類のピーマンと主食としてのご飯であった。食物によって、男女間の嗜好度の平均値がかなり異なり、女子のその値がかなり高かったものは、甘味をもつ菓子類のアイスクリーム、ケーキ、チョコレート、酸味をもつ果物類のグレープフルーツとはっさくおよび酢の物、嗜好飲料の緑

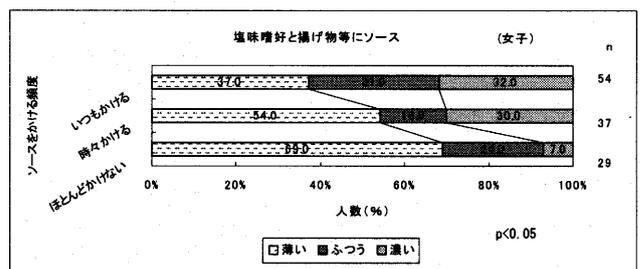
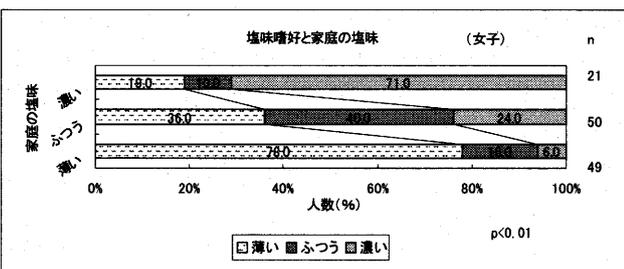
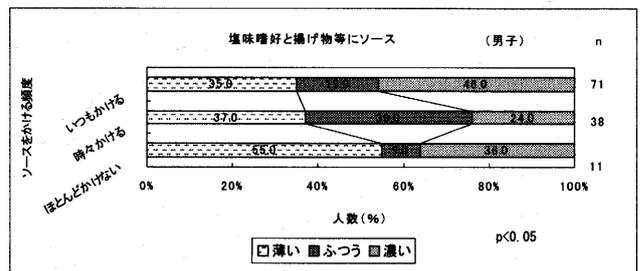
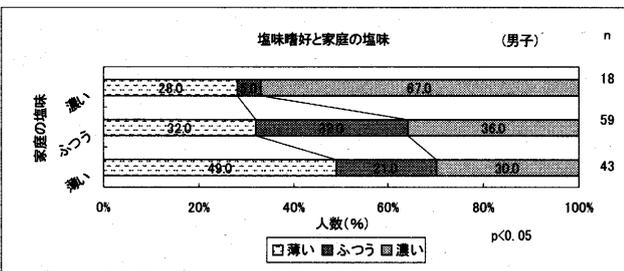


図2 「塩味の濃淡の好み」と食事状況との関わり

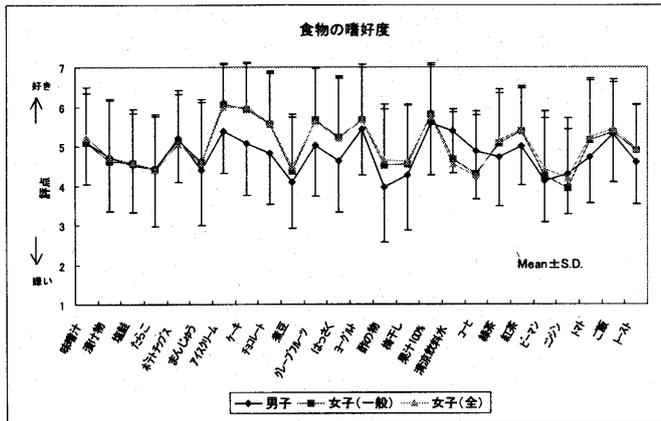


図3 大学生の食物25品目に対する嗜好度  
 \* 嗜好評価は7段階尺度の評点法で行った。  
 \* 男子：120人，女子(一般)：120人，女子(全)：167人

表4 「塩味の濃淡の好み」(塩味嗜好)の度合と各食物の嗜好度との順位相関係数

No.	食物	男子	女子
[塩味を主とする群]			
1	味噌汁	0.176	0.230*
2	漬物	0.073	0.075
3	塩鮭	0.234*	0.243**
4	たらこ	0.207*	-0.062
5	ポテトチップス	0.237**	0.015
[甘味を主とする群]			
1	まんじゅう	0.211*	-0.059
2	アイスクリーム	0.014	0.122
3	ケーキ	0.070	0.165
4	チョコレート	0.263**	0.191*
5	煮豆	0.167	-0.160
[酸味を主とする群]			
1	グレープフルーツ	0.208*	-0.040
2	はっさく	0.163	-0.013
3	ヨーグルト	0.066	0.007
4	酢の物	0.036	-0.041
5	梅干し	0.019	0.062
[飲料類]			
1	果汁ジュース	0.051	0.015
2	清涼飲料水	-0.003	0.209*
3	コーヒー	0.077	0.003
4	緑茶	0.076	-0.117
5	紅茶	-0.008	-0.142
[野菜類]			
1	ピーマン	0.059	-0.143
2	にんじん	0.135	-0.094
3	トマト	0.133	-0.138
[いわゆる主食となる群]			
1	ごはん	0.025	0.057
2	トースト	0.017	0.032

注1. 「塩味の濃淡の好み」については、表2にその集計結果を示したが、カテゴリーの1~7と食物の嗜好度(1~7)との間で、スピアマンの順位相関係数(r<sub>s</sub>)を求めた。  
 注2. 男女の人数は表3に同じ。  
 注3. \* p<0.05, \*\* p<0.01

茶，紅茶，野菜類のトマトであった。一方，男子のその値が高かったものは，嗜好飲料の清涼飲料水，コーヒーであった。このような男女学生の食物類に対する嗜好度の差異については，既報<sup>4)</sup>，川染ら<sup>11)</sup>，戸田<sup>12)</sup>と同傾向であった。

2) 「塩味の濃淡の好み」と食物の嗜好との関連

本報では，塩味嗜好を「塩味の濃淡の好み」によって捉えて分析することは前述，方法の項で記したが，その「塩味の濃淡の好み」については表2に示したものはカテゴリー回答であり，その設問は「非常に薄い」～「非常に濃い」と段階的であるので，これを数量値の評点1～7に変換すると，男子は平均4.00(標準偏差1.00)，女子は平均3.63(標準偏差1.05)となり，この平均値からも男子は女子よりも濃味嗜好であることが分かる。

一方，食物25品目に対する嗜好度も，「塩味の濃淡の好み」と同じように，1(「非常に嫌い」)～7(「非常に好き」)と段階的な評価である。そこで，「塩味の濃淡の好み」と「食物の嗜好度」との関連をみるのに，順位相関係数を求め，表4に示した。「塩味の濃淡の好み」との順位相関が有意であった食物は，塩味をもつ食物が他の味をもつ食物に比べて多かった。男子では塩鮭(p<0.05)，たらこ(p<0.05)，ポテトチップス(p<0.01)，女子では味噌汁(p<0.05)，塩鮭(p<0.01)であった。

「塩味の濃淡の好み」との順位相関が有意であった塩味以外の味の食物については，男子ではまんじゅう(p<0.05)，チョコレート(p<0.01)，女子ではチョコレート(p<0.05)，清涼飲料水(p<0.05)であった。チョコレートは男女ともに有意であったが，それは強い甘い味をもつチョコレートを好む(嗜好度の高い)人は，塩味も濃い味を好む(「塩味の濃淡の好み」の評価は高い)ことを意味し，そのことは既報の調査<sup>4)</sup>および官能検査<sup>5),6)</sup>から，濃い甘味嗜好の人は，また濃い塩味嗜好の傾向にあるとの結果と符合すると考えられた。

以上，塩味嗜好と食物の嗜好との関連をみると，濃い塩味を好む人は，男子では塩味の菓子(ポテトチップス)を特に好み，女子では塩味の副菜的な食品(味噌汁，塩鮭)を好むことより，男女の間に塩味嗜好において，質的な差異があると思われた。

IV. 要 約

塩味嗜好に家庭生活における如何なる要因が関連するのかを調べるために，我々は男女学生287人に，彼らの生活状況，食事状況，食物の嗜好を調べた。その結果は次の通りである。

(1) 塩味嗜好として「塩味の濃淡の好み」の質問に対して，男女ともに「ふつう」とした人は最も多く，男子は約24%，女子は約25%であった。男女の比較では，女子は男子よりもやや薄味嗜好を示した。

(2) 「塩味の濃淡の好み」とのクロス集計において有意であり，関連が最も強かったものは，男女ともに「家庭における塩味の味付け」であった。その他，男子では「母親の職業」

女子では「家族構成」、男女ともに「揚げ物等にソース・醤油をかける頻度」であった。

(3) 男女ともに、塩味嗜好と塩味をもつ食物の嗜好との間には有意に高い順位相関を示すものが多かった。

(4) 塩味嗜好と塩味をもつ食物との関連については、濃い塩味を好む人は、男子ではポテトチップスを好み、女子では味噌汁と塩鮭を好んだ。従って塩味嗜好には男女間に質的な差異があるようであった。

## 引用文献

- 1) 青木伸雄：高血圧と食生活，栄養誌，46，65（1988）
- 2) 広畑富雄，富田純史，古野純典：栄養・食物と癌—疫学的アプローチを中心として—，栄養誌，49，185（1991）
- 3) 山口迪夫，木村修一，吉田 昭，青山頼孝，武田秀敏，桐山修八，林 伸一，松枝 啓：栄養学総論，pp.179～184（1999），同文書院，東京
- 4) 加藤征江，永田佳子，井川明美：大学生の塩味または甘味に対する味覚意識と食物嗜好，調理科学，25，39（1992）
- 5) 加藤征江：女子学生の塩味と甘味に対する味覚感受性と味嗜好について，家政誌，43，1209（1992）
- 6) 加藤征江，井藤早苗，浦上紀子：青少年についての塩味と甘味の飲物の味嗜好について，富山大学教育学部紀要，51，35（1997）
- 7) 高木恵子，戸田ゆり子，大橋邦和：多変量解析による塩味覚に影響を与える要因の検討（第2報），栄養誌，44，251（1986）
- 8) 香川靖雄，岩田 弘，太田拔徳，工藤快訓，武藤信治，西村薫子，佐東準子，所沢和代，手塚統夫：寮内学生の食塩摂取量と塩味嗜好の出身地域差，栄養誌，38，155（1980）
- 9) 高木恵子，戸田ゆり子，戸川昌子：かつおだし濃度の異なったすまし汁中の食塩濃度に関する味覚調査，栄養誌，43，319（1985）
- 10) 成田 健，佐原 昊：女子生徒および学生における塩味嗜好の差異，栄養と食糧，32，229-233（1979）
- 11) 川染節江，田中照子：青年期の食品の嗜好性，栄養誌，32，32（1974）
- 12) 戸田 準：食品の嗜好調査（続），調理科学，1，32（1978）